財団法人 日本ハンドボール協会編　平成22年 9月1日発行(毎月1回1日発行)　通巻512号　昭和40年6月7日第3種郵便物認可

ハンドボール

特集
第15回ヒロシマ国際大会
第51回全日本実業団選手権
男子20回・女子8回世界学生選手権

9
SEP.2010・No.512

[表紙写真：ヒロシマ国際大会で最優秀選手に選ばれた宮﨑大輔選手]

財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

マスターズハンドボール
発展と分化、そして課題

（財）日本ハンドボール協会参事・マスターズ専門委員会委員長　小山 哲央

思い返しますと平成５年８月、豊田市で全日本教職員大会が愛知国体のリハーサル大会として開催された折に、全日本マスターズが産声を上げました。第１回大会は男女で９チーム、第２回は僅かに６チームの参加で継続が危ぶまれましたが、多くの仲間の協力で今日の規模に育ってまいりました。

今年度、第 18 回大会は、男女合わせて 69 チームが参加し、これまで３年連続愛知県豊田市で開催されました。同じく豊田市で開催された第 10 回記念大会は、34 チームの参加でしたので８年間で大会規模が倍増したことになります。

第１回から続けてきました懇親会も、第 16 回大会では 600 人以上の選手・役員が参加し、身動きが出来ないほどでした。加えて第２回大会から行ってきましたイベント「親と子のふれあいタイム」も、昨年から「60 歳以上の皆さんと子供たちとのふれあいタイム」（仮称）に衣替えをしました。60 歳以上の参加選手 65 名に交じって、豊田市内のスポーツ好き高齢者とそのお孫さんも大勢参加しハンドボールを楽しみました。今年度はこの中から、ボランティアで 10 名以上の方が手を挙げてオフィシャルを務めて下さいました。

このようなボランティアの皆様方の参加は、「全て参加者の手作りで」を基本理念とする大会趣旨を、より一層鮮明にしてくださいました。

今後は現役マスターズハンドボーラーに加えて、マスターズ予備軍となる世代が控えているので、規模は最大 100 チームまで拡大すると考えております。そのために１つの地域で少なくとも 10 コートが必要となり、非常に厳しい条件になります。そこで、今後マスターズハンドボールを発展させるためには、分化を試み、再構築する必要があります。そのためには少なくとも以下の３つの課題を克服しなければなりません。

〈課題１〉ブロックマスターズの普及と充実

（１）都道府県協会にそれぞれ有資格チーム（個人も含む）が複数登録すること

（２）総合型地域スポーツクラブを視野に入れた市区町村型チームの結成

〈課題２〉全日本マスターズの発展と分化

（１）全日本順位決定型マスターズの開催

（２）（財）日本体育協会主催の日本スポーツマスターズへ参入

（３）全日本交流型マスターズの開催

a）現行のマスターズの継続

b）個人参加型年齢別マスターズの開催

c）ファミリー参加型マスターズの開催

d）11 人制ハンドボールの開催

〈課題３〉専用ホームページを開設し普及及び広報活動の多様化を図る

マスターズ委員会といたしましては以上の３つの課題に取り組んで行こうと考えております。全国ブロック協会、都道府県協会、市区町村協会、更に全国のハンドボールの愛好者の皆様のご協力なくしてはマスターズの発展はありません。応援宜しくお願いいたします。これまでの参加者の皆様には、手作り大会に更なるご支援とご協力をお願いいたします。

第15回ヒロシマ国際ハンドボール大会をおえて

広島県ハンドボール協会理事長　山本　一

1994年の広島アジア競技大会のメモリアル大会として、翌年から開催されているヒロシマ国際ハンドボール大会ですが、今年で15回目を迎えました。一度だけ2003年はSARS騒動の為中止としましたが、原則として男女の大会を交互に行っており、今年は男子の試合でした。

ロンドンオリンピック出場を目指している酒巻日本代表監督とも強化部を通じて連絡を取り、先のアジア選手権で韓国についで2位となったバーレーン代表、そして身長200cmを越す選手が4名もいる中国代表を招聘、また次のJAPANを担うNEO日本代表の4チームでのリーグ戦でした。

また招待試合として7月11日まで徳島で開かれた全日本実業団選手権の後、引き続き広島で強化合宿を行なっていた全日本女子チームと広島メイプルレッズの試合を実施しました。広島は全国を縦断した豪雨のあと大会を通じて猛暑となり、選手団の皆さんはコンディションの調整には苦労されたことと思います。

外国チームの来広が22日の夜間となった為、ウエルカムパーティは広島県体育協会、広島市スポーツ協会、日本協会、広島県協会役員会及び協賛各社の方の参加による前夜祭とし、雰囲気は全日本チームの激励会となりました。また代表者会議は翌日の朝行なうことになりましたが、試合の方は順調にスケジュール通り消化できました。

大会は前にも述べたように3日間猛暑に見舞われましたが、それでも足を運んでくださったハンドボールファンには感謝の気持ちで一杯です。

最終日には表彰式及びサヨナラパーティを行ないました。パーティには、広島オリンピックを準備されている秋葉忠利広島市長も忙しい政務の中出席いただき、祝辞を頂戴しました。

最後に大会を開催するにあたり、広島県、広島市をはじめ各方面から多大な協力を賜りましたことに感謝し、男女日本代表にはなんとしても打倒韓国を果たし悲願を達成していただきたいものです。

■最終結果

優勝：日本代表
２位：NEO日本代表
３位：バーレーン代表
４位：中国代表

■個人表彰

最優秀選手賞　宮﨑　大輔（日本代表・CP）
優秀選手賞　松村　昌幸（日本代表・GK）
谷村　遼太（NEO日本代表・CP）
マハー　アーソレ　ヤーハ（バーレーン代表・CP）
周　小堅（中国代表・CP）

戦　評

【男子】

日本代表　36（17－16、19－10）26　NEO日本代表

立ち上り互角の展開を見せる両チームであったが、10分過ぎからNEO日本代表のシュートが日本代表GK松村の好守の前になかなか決まらなくなる。ペースをつかんできた日本代表が抜け出すかと思われたが、NEO日本代表のGK甲斐もファインセーブを連発、簡単に流れを渡さない。ディフェンスの足もよく動いてきたNEO日本代表は、攻撃のリズムも良くなり、日本代表と互角以上の戦いを見せ、追い上げを図る。白熱した接戦を演じた前半は16対17の日本代表が1点リードで折り返した。

後半に入り日本代表が2連取、主導権を握るかと思われたが、NEO日本代表も粘りを見せ3点差のビハインドをキープしチャンスをうかがう。試合は終盤に突入、日本代表は7番宮﨑がパスにシュートに活躍、攻撃のリズムを作り、じわりじわりと点差を広げていった。勢いに乗った日本代表は着実に加点、36対26の10点差をつけ、初戦を快勝した。

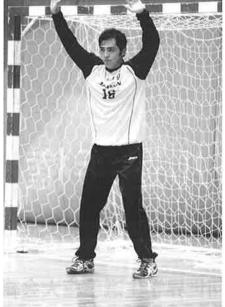
バーレーン代表　27（14－12、13－14）26　中国代表

NEO日本代表　35（20－12、15－16）28　バーレーン代表

NEO日本代表は、戻りの遅いバーレーンに対し速攻を仕掛け得点を重ね序盤から大きなリードを奪う。バーレーンは前半12分に早くもタイムアウトを要求し、立て直しを図るがNEO日本代表の勢いは止まらない。NEO日本代表はその後も速いパス回しからリズムの良い攻撃を組み立て試合を有利に進め、20対12の8点をリードし前半を折り返した。

後半に入り、バーレーンGK16番サラがファインセーブを連発、NEO日本は攻守のリズムが悪く、バーレーンのサイドからの攻撃を止められず、一時追い上げを許すが、試合の流れが大きく変わることはなかった。後半は互角の勝負を展開するが、前半の得点差は大きく35対28でNEO日本代表が勝利を収めた。

日本代表　29（11－12、18－8）20　中国代表

序盤、リードを奪った日本代表はオフェンス・ディフェンスとも中国に対し優位に立つように見えたが、シュートミスが目立ち逆に中国にリードを許す展開となる。前半20分に同点に追いついた日本は、21分日本代表7番宮﨑のトリッ

キーなステップシュートで逆転。しかし、25分には中国に再逆転されるといった一進一退の攻防を繰り返した。

前半を11対12の1点ビハンドで折り返した日本代表はディフェンスシステムを6－0ディフェンスから3－2－1ディフェンスに変更、リズムを崩した中国を日本は一気に逆転。勢いに乗るかと思われたが、中国代表GK王のファインセーブに阻まれペースダウン、競り合いから抜け出せなかった。10分過ぎから日本代表7番宮﨑、3番高智の連続得点で一歩日本が抜け出すと、そのリードを保ったまま終盤戦を迎えた。終盤攻守のリズムを取り戻した日本は一気に加速、29対20の9点差をつけ勝利を収めた。

NEO日本代表　26（12－11、14－14）25　中国代表

NEO日本代表が石戸のミドルで幸先良く先制。すかさず中国代表も打ちかえす。序盤、NEO日本代表は中国の高いディフェンスとGKのセーブに苦しみ得点が伸びない。中国も5－1ディフェンスを攻めあぐね、8分で4対4のロースコアの展開。静かな立ち上がりの中、中盤を迎え先にペースを握ったのがNEO日本代表。GK甲斐の好セーブから森、谷村らが得点を重ね、9対5と13分30秒までに4点のリードを奪う。中国も再三の好機を甲斐に阻まれようやく20分過ぎに6点目を挙げ、徐々に反撃、攻撃に決め手を欠くNEO日本代表を尻目に29分には10対12と2点差に詰め寄る。残り30秒、さらに1点を返し、12対11、NEO日本代表1点差のリードで前半を終了した。

後半出だし、前半終了間際の勢いで、中国代表が2点を連取し、すかさず逆転。ここから、一進一退の攻防が続き、11分まで18対18の同点で中盤を迎える。中盤以降も膠着状態が続き、20分まで21対21と、双方ともメンバーを頻繁に入れ替え打開策を講じるが、抜け出せない。25分ポストプレーから2点連取し、中国代表が2点リード、しかし、NEO日本代表も森が中国代表の2分間退場を誘い1点差、27分には一気に26対25と逆転した。ディフェンスで粘りを見せたNEO日本代表がそのまま逃げ切り、勝利した。

日本代表　28（15－13、13－9）22　バーレーン代表

試合開始から日本代表GK浦和が好守を連発、攻撃も早いパス回しでバーレーンディフェンスを揺さぶり、得点を重ねる。日本の速い攻撃についていけないバーレーンは前半10分までに警告を1枚、退場を2人だす苦しい展開となった。しかし、日本のシュートミスが続きだすとバーレーンが息を吹き返し日本は劣勢に立たされる。日本はその後も悪い流れを断ち切れずミスを多発、ディフェンスのリズムも崩し、バーレーンの追い上げを許した。日本代表は、なんとか2点のリードを保ち前半を折り返した。

後半に入っても互角の勝負を展開、バーレーンは後半4分過ぎから13分までにのべ4人の退場者を出す。日本はこの間にも攻めきれず、拙攻を繰り返すが、なんとか5点まで差を広げることに成功した。その後もバーレーンは、ミスを繰り返すが、日本は相手のミスに乗じてたたみかけることができない。試合は後半中盤に奪った得点差を保ち終了。28対22で日本が勝利を収めた。

【女子】

日本代表　38（16－14、22－9）23　広島メイプルレッズ

両チームとも足がよく動き、スピード感あふれる攻防を展開。互角の戦いを見せていたが、前半10分過ぎからシュートの精度に勝る日本代表が一歩抜け出す。日本代表10番・藤井の活躍やスカイプレーやポストプレーに苦しむメイプルレッズは、試合開始からディフェンスのみの出場だった復帰の呉が攻撃参加、攻撃のリズムを取り戻した。呉の活躍もあり追い上げムードを見せるメイプルレッズであったが、結局前半は16対14で日本代表の2点リードで折り返した。

後半、攻撃が単調になり始めたメイプルレッズに対し、日本代表の勢いは加速。後半10分には8点まで差は広がった。ここでメイプルレッズはタイムアウトを要求し、なんとか流れを変えようとするが、日本代表の勢いは止められず、日本代表ががっちりと試合の主導権を握った。最後まで足の衰えなかった日本代表が38対23で大勝した。

第20回
世界学生
ハンドボール選手権

20th World University Handball Championship 2010

最終順位

[男子]	[女子]
優勝：ハンガリー	優勝：ハンガリー
2位：チェコ	2位：ルーマニア
3位：セルビア	3位：チェコ
4位：日本	4位：トルコ
5位：キプロス	5位：ポーランド
6位：トルコ	**6位：日本**
7位：ポーランド	7位：ブラジル
8位：ウクライナ	
9位：UAE	
10位：メキシコ	

男子第20回・女子第8回世界学生選手権大会総括

チームリーダー　**福地 賢介**（全日本学生ハンドボール連盟）

2010世界学生選手権大会は、ハンガリー・ニレージハーザ市を中心に、近接都市のチサバシバリ、チェンガー他で、男子10ケ国、女子7ケ国が参加し6月27日（開会式）から7月4日まで開催され、男女共に開催国ハンガリーが優勝し閉幕した。同地は1996年12月に男子第13回大会が開催され、日本代表と名がつくチームがはじめてロシアに勝利したゲンの良い地であり、男女共に初のメダルを狙ったが、男子は3位決定戦で7mTCにて敗れ4位、女子は、不馴れな大型選手を相手に健闘したが、惜しくも6位であった。

当初の連絡では、男子16、女子12チームとの事であったが、ロシアをはじめ旧ソ連勢が8月のロシア大会の為に不参加と言う説明を受け、更に、最終的にはエジプトの直前棄権も含め、前述の参加国数となった。男子はABブロックに分け、予選リーグ・順位決定戦方式、女子は7ケ国の総当り戦で競技が行われた。

ユニバシアード規定（FISU）で、社会人2年目までの選手の出場が認められており、男子は今回も社会人中心にチーム編成したが、国際試合経験に関しては、ポーランド・イタリア・今回と3大会連続参加選手も含め、不安は認められなかった。女子も、イタリア大会参加も含めた社会人7名プラス学生9名の編成であったが、やや国際試合経験不足は否めなかった。

1995年にハンガリー学生選抜チームが来日して以来、ハンガリー大学スポーツ連盟（HUSF）と全日学連は交流を重ねているが、非常に親日的で、前回大会時も今回も直前合宿を含め何かと便宜を図ってくれた。また、当地のマスコミも、女子チームのコーチがハンガリー人のローランドコーチという事も手伝い、直前合宿を取り上げてくれていた。

ギリシャの経済破綻の次は、ハンガリー、イタリア等ではとニュースで報道されているが、1996年開催時と比較して、大会規模、運営、その他の面で、質素にと言うか、その様な点が多々見受けられ、市からの予算面の補助圧縮があった事が窺われた。しかし、HUSFは、過去にニレージハーザ市とジョイントし、各種目の世界学生選手権大会を開催しており、

A japánok az első fecskék

A balatonfüredi Nemes Roland személyében magyar szakember segíti az ázsiaiak szakmai munkáját.

Jó úton jár a Zsoldos-sereg, amely magabiztosan nyert

運営面では円滑な運営が認められた。

優勝したハンガリー男子は、前々回7位・前回9位とやや低迷していたが、1996年優勝時の主将ロスタ弟がコーチを、また、元ハンガリー代表のロスタ兄がヘッドコーチを務め、自国開催優勝を果たした。女子は前々回ポーランド、前回はトルコに決勝戦で敗れているが、今回は前回メンバーの大半が残り、安定したチーム力を見せて、最終日前に優勝を決めている。

日本男子は、スタッフ報告で述べられると思うが、個人的な印象では、早いパスワークからスピードある攻撃を見せていて、一応の得点力を見せていた。しかし、緒戦のメキシコ戦で立ち上がりもたつき前半を苦戦した様に、チェコ戦でもそこを衝かれて敗れ、やや不安定さを見せていた。ただ、全日本酒巻監督が、国際試合に若手（信太他学生含む）の起用を図ってくれている事が経験となり生かされていた。

女子は、スピードある攻撃ではあったが、大型選手を相手にDF面で苦戦（特にポスト対応）し、それが結果となって表れた。

男女共にU－24として、将来、全日本に繋る選手の育成という事を見ると、この大会での経験は大きなものとなると思われる。最後に、大会参加に際して、多くの方々のご支援、ご協力にお礼申し上げます。

男子　男子監督　佐藤壮一郎

1．はじめに

選手やスタッフを派遣して下さった所属チームの皆様や強化のサポートをして下さった日本代表酒巻監督、大会出場準備などでご尽力頂いた日本協会の方々にお礼を述べさせていただき、結果と取り組み、今後の課題を記載いたします。

2．基本方針

課題克服・知識創造型チームを目指し、強化して行く。具体的には、過去の世界学生選手権の結果を現状把握（成果と課題）として、成果については継続。課題に対しては原因究明、対策を立案し、実行していき、課題の克服を目指す。また、知識創造については、チーム（スタッフ・選手）の役割を明確にし、責任と権限を持たせることでアイディアの抽出共有を図っていき、自立した選手の育成を目指していく。具体的な実施内容や計画については、下記、活動骨子をご参照ください。

3．活動骨子

（1）目標…メダル獲得。
（2）チーム方針…得点力のある選手をベースに特徴に合ったDFシステムを構築し、スピードある展開を目指す。
（3）過去大会の課題
【フィジカル面】ハンドボールは、コンタクトプレーが許されるため、時としてウエイトが武器となる。しかし、学生は、経済的な理由等から食生活が疎かになり、世界で戦える身体ができていない。トレーニング・栄養・睡眠を効率よく実施できる知識と環境の充実を図ることが重要である。パワー・スタミナ対策（大型PP・BP、クイックスタート、連戦）
【戦術面】世界は、速攻を中心に早いテンポで攻撃を仕掛けてくる。攻撃中心選手のDF力が劣り、逆速攻の失点やクイックスタートに対する防御が問題となる。また、ポストへのパスミスなど帰陣できないミスを減らす。OF・DFバランスのとれた選手の育成とライン際のシュートが増えるグループ戦術を充実させる。また、日本人のクイックネスを最大限に生かすため、二次速攻による得点力アップを図る（チーム戦術の充実）。以上を踏まえて、大会前に互角以上の相手とトレーニングマッチを実施し、事前に課題を抽出する。大型DF・GK対策（ドリブル突破・ステップシュートの変化・ステップフェイント、ワンマン速攻、股下顔横シュート・速攻スカイ・攻め倦んだときの打開策）
【メンタル面】プレッシャーのかかる状況で実力が発揮できるように若い世代のうちに様々な相手と国際試合を数多く、経験させる必要がある。特に開幕戦と勝負の掛かったゲームの準備。モチベーションの持続や何事が起きても動じないメンタリティー、接戦での平常心が必要。
【コンディショニング】前回大会では、3連勝した休息日、翌日の状態が良くなかったので、スケジュール調整を綿密に行う。1日1回緊張感を与えるように工夫する。
【その他】怪我人などでメンバーの固定が遅れ、大事な場面で組織的に機能せず、また、センターラインを固める核の選手が育たなかった。国内でチームのベースを創り、海外遠征を実施、また、コートの中での監督を育成する。
【選手選考】24歳以下（実業団1・2年目）の強化指定選手から得点力、フィジカル、スピードの順で選考。国内の大会において、所属チームでゲームに出場している選手実業団とトレーニングマッチを行い、戦力的に必要な選手を補強(強化指定選手外含)。
【大会までの事前準備とコンディショニング】09／5：NTCにて体力強化合宿を実施する。所属チームにて体力トレーニングを継続。強化指定選手をベースに世界で戦える身体（身長－100以上の体重）を目指す。09／8・2010／2：実業団とテストマッチを行い、課題の確認をする（チームのベース創り）。世界選手権の数週間前に現地入りし、テストマッチを実施し、パワーとスピードに慣れ、大会に臨む。
【ルール】代表選手としての自覚と責任のある行動をとる。コートの中では常に全力を尽くす。コートの外では、最高なパフォーマンスが発揮できる準備をする。
【スタッフ選考基準】技術・戦術を指導できる者（特にOF）／ハンドボールを熟知し、外国語が堪能な者／明るく気配りのできる事務的能力に優れた者／最新機器を駆使し、映像編集や分析能力にたけてる者／メンタルケアーもできるドクター・トレーナー

4．今大会の成果と課題

（1）過去大会に対する成果
【フィジカル面】（世界と戦える身体）パワー・スタミナ対策：押されて倒れる選手がいなくなった。連戦に対応できた。
【戦術面】（各局面バランスのとれた選手育成）DF～速攻が数多く決まった。個人戦術も決まった。
【コンディショニング】完璧であった。
（2）第20回世界学生の成果
戦う姿勢があった。過去最高の4位となった。役割分担ができていて、チームワークがよかった。
（3）第20回世界学生の課題
【フィジカル面】更なる個の強さ：コンタクトや身体の使い方
【戦術面】基本技術：DF 1対1（フェイント・ポスト守り）／GK：サイドシュートのキーピング／攻め倦んだときの打開策（1点プレーの充実、弱点把握）／7mTコンテストの準備
【メンタル面】最後まで攻め続ける強い気持ち、どんな状況も慌てない平常心。
【その他】大会規定の把握

5．最後に

念願の世界大会でのメダル獲得はなりませんでしたが、日本ハンドボール界の強化の方向性は間違っていないと確信しております。NTS やジュニアアカデミーなど強化策を更に充実させ、日本代表の世界選手権での活躍やオリンピック出場に向けたサポートが他人事にならず、日本ハンドボールファミリーが一丸となる事を切に願い、大会報告とさせていただきます。

女子　女子 U24 監督　齊藤慎太郎

世界学生ハンドボール選手権大会の報告を、女子 U24 日本代表監督としてご報告いたします。

4 回にわたる国内合宿と、現地での直前合宿を含め計 5 回の強化合宿を実施し、本大会に臨みました。選手選考において、エントリー締め切り直前まで調整が難航したにも関わらず、強化のためにご協力頂いた選手ならびに所属のチームの関係者の方々には心より感謝いたしております。

結果は 7 チーム中 6 位と目標のメダル獲得には及ばず、残念な結果に終わりましたが、選手ならびにチームを支えてくれたスタッフが、最後まで勝利に向かい最善の努力を尽くしてくれたことは、今回のチームの成果の一つであったと確信しております。

大会前の合宿で、男子高校チームを相手にパワーと高さになれるためにゲームを実施しました。明星高校、湘南工科大付属高校には大変お世話になりました。相手のパワーに対する課題と、OF でのねらいの確認ができました。一方、DF および攻撃のポストとしてチームの主力と考えていた若泉と、大型プレーヤーとして期待していた町屋の両選手が負傷し、残念ながら試合には出場できなかったのですが、裏方として支えてくれたことには監督として心より感謝しています。

現地での直前合宿はハンガリーの U24 代表チームと試合し、大型選手とのゲームを体感した後、本大会に臨みました。大会では初の海外遠征の経験者が多く、ミーティングで実施したことと、いざゲームにおいて戦ったときのギャップのリカバリーができないまま終わったゲームや、リバウンドやルーズボールの処理で失点してしまい、わずかに勝利を掴めなかったというような勝負どころの弱さが課題として挙げられました。逆に攻撃の展開のスピードやフェイント力などでは十分に勝負できる部分はありますが、攻撃の展開に＋判断力が備わるとさらに、攻撃のよさが生きてくると感じました。

今大会を終えて、次の日本の主力となり世界で戦える選手としてこの大会の経験を必ずや次のステージに繋げてくれることを切に願う次第です。最後に、冒頭でも記述しましたが、本大会に参加するに当たり、多大なるご尽力をいただきました関係者の皆様方に改めて心より感謝申し上げます。

女子　女子代表チーム主将　稲葉由衣

私達、U－24 女子日本代表チームは、6 月 27 日～7 月 5 日まで、ハンガリー・ニレージハーザ市で開催されました女子第 8 回・男子第 20 回世界学生選手権大会に出場させていただきました。

今大会は、前回大会に比べ女子は参加国数が 7 カ国と少なく、総当りのリーグ戦となりました。メダル獲得を目標に、国内での事前合宿や現地でハンガリーU－24 とテストマッチを行い大会に臨みましたが、結果は 1 勝 4 敗 1 分と納得のいく結果を残すことはできませんでした。

パワーと長身を生かしたプレースタイルのハンドボールを展開する相手に対して、日本人らしいスピードとテクニックを生かすハンドボールができず、逆に自分たちのミスから相手のペースに持ち込まれるケースが多かったように思います。しかし、試合を重ねるごとに大型のバックプレーヤーに対するアグレッシブなディフェンスやそこからの逆速攻、アウトスペースを狙った攻撃など自分たちの戦術が機能する場面が徐々に増えていきました。特に 3 試合目のルーマニア戦では、後半中盤までの 10 点のビハインドを 1 点差まで追い上げるゲーム展開で、最終的には 34 対 35 で敗戦となりましたがスタッフ・選手共に納得のいく一試合でした。

今大会を通して、敗戦のほとんどが「惜しい試合だった」「あと少しで勝てた」という試合ばかりでした。しかし、私たちには「勝つ」ことが求められており、1 点差でも「勝つ」ことを目標にしていただけに課題の多く残る大会となりました。大事な場面で 1 点を取る力、1 点を守る力、6 連戦という厳しい状況の中で大型選手と 60 分間戦い抜くスタミナなど、世界と戦うために私たちには多くの面でレベルアップが必要だと感じました。メンバーの中には学生選手・国際大会が初めての選手も多く、今大会に参加させていただいたことで貴重な経験となりました。

大会出場にあたり、ご支援いただきました皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。

【男子】

▼6月28日

日本　39（14－12、25－8）20　メキシコ

東長濱のシュートで先制､小澤の速攻などで着々と加点し、17分までに10対4とリードしていたが、20分過ぎ、日本DFの突然の乱れから追い上げられて、14対12と2点差で折り返す。

後半開始早々1点差とされたが、その後、東長濱・野村・谷村･石川･小澤等で6連取、17分まで甲斐の好守を背景に、野村、信太、森光、他で14点差として、それ以降も、コンスタントに得点し、幸先よく緒戦を飾る。

（得点）小澤8点、野村・信太6点、東長濱4点、森・森光・谷村・木切倉3点、石川2点、石戸1点

▼6月29日

日本　29（11－10、18－12）22　ウクライナ

2mクラスの長身者をそろえたウクライナをどう攻めるか注目されたが、お互い探り合いから、2分過ぎ石川がミドルを決めて先制。10分までは5対3とリードしていたが、負傷退場者が出てから攻守でリズムを乱し、20分までにエースZAKHAROVをはじめ7連取され、その間10分間無得点で10対5とされた。20分過ぎから石川・野村・小澤・谷村・信太で6連取、甲斐の好セーブでウクライナを無得点に抑えて、前半を11対10で折り返す。

後半は、谷村、小澤の2連取でペースを掴み、東長濱のミドル・生川のポスト・石戸のミドル等から着々と加点。常に先手をとり勝利した。ゲームをリードした石川や甲斐・田中の両GKの活躍が光っていた。

（得点）野村･小澤6点、東長濱5点、石川･谷村･石戸3点、信太2点、生川1点

▼6月30日：予選リーグ

日本　30（12－22、18－14）36　チェコ

立ち上がり、チェコの長身ポストRIHAやJURKAのカットインで2連取されたが、日本も石川・小澤で取り返し、5分まで3対4としていた。5分過ぎ、メキシコ・ウクライナ戦で見られたDFの乱れが急に出て、20分までに14対5とされて、そのまま推移。結局、前半は10点差で折り返す。

後半、東長濱のミドル、小澤の速攻で調子を取り戻し、GK甲斐の踏ん張りがあり、10分経過時点で21対26として追い上げにはいった。その後、立直ったチェコはJURKA等でコンスタントに得点、日本も追い上げたものの及ばず敗れた。惜しまれる一戦であった。

（得点）東長濱8点、野村・小澤5点、石川4点、森3点、谷村2点、信太・木切倉・石戸1点

▼7月2日

日本　41（19－18、22－15）33　トルコ

勝てば3決へという大事な一戦。長身ポストTOLGA、エースVOLKANを軸とした攻撃を見せるトルコに、TOLGAのポストシュートで先制され、更に、VOLKAN、MERと連取されたが、3分過ぎにやっと谷村のミドルが決まり、5分で3対4とした。しかし、3連取され、3連取で返すといった状況から20分やっと13対12と抜け出す。その後も1点を争う展開、トルコに退場者が出たが生かす事が出来ず、終了間際互いに1点をとり18対19で後半へ。

後半開始早々、小澤の速攻2本、野村の7mTで3連取しペースを掴み、9分から11分にかけて石戸・東長濱、信太、小澤とたたみかけ、石川から小澤へのスカイも決まり29対23とした。以後、着々と加点し、石川のバックハンドシュートが決まると同時に終了し、3位決定戦へ駒を進めた。なお、GK甲斐の随所での好セーブが評価されゲームベストプレーヤーに選ばれている。

（得点）小澤12点、谷村7点、石川･東長濱5点、野村4点、信太3点、森・石戸2点、生川1点

▼7月4日：3位決定戦

日本　38（18－19、13－12）39　セルビア
（7　7mTC　8）

前回大会（イタリア）でも引き分けた因縁の相手であり、悲願のメダルをかけた一戦。

立ち上がりセルビアのエースMILINICのカットイン、KOVACEVICの速攻で2連取されたが、石川で返した。その後も東長濱・野村・小澤の3連取で4対3としペースを掴んだかに思えたが、6分過ぎDFの乱れから5連取を許し4対8とされる。その後、15分までは1点ずつを取り合う展開から、信太の速攻が決まり、小室、小澤でたたみかけ、10対11に追い上げる。GK甲斐の連続好セーブをはさみ27分、石川のミドルで逆転、17対16とするが、28分・左腕POPOVIC、29分PAVLOVICに決められ18対19で終了。

後半、日本は甲斐の好セーブをベースに速攻で、セルビアは左右のエースで共に加点、1点を取り合う好ゲームとなる。26分、小室で逆転するが、MILINICに2連取され30対31とされる。残り1分30秒で小澤が決めて同点。小室の好DFから残り15秒でマイボールとし仕掛けたが、タイムアップ。大会規定で7mTCへ。1回目･2回目で決着がつかず、サドンデスに。日本・セルビアともにベンチ全員が肩を組み味方の勝利を祈ったが、勝利の女神はセルビアに微笑み、日本の悲願のメダルは次回（ブラジル）へと持ち越された。

（得点）東長濱10点、小澤9点、野村・森光4点、石川・小室3点、信太・谷村2点、木切倉1点

▼7月4日：優勝戦

ハンガリー　33（16－13、17－13）26　チェコ

大型同士の対戦で迫力ある試合が展開された。立ち上がり、チェコがLEHOCKY、PTROVSKYで先行、ハンガリーはミスの少ない安定した試合運びで、エースHALÁSZSIMON、他で直ぐに追いつき、6分過ぎから4連取。以後、互いに点を取り合う展開で推移。16対13で前半を終了。

後半に入ってもハンガリーが先行し、18対13としてハンガリーペースで進む。チェコも、LEHOCKY、PETROVSKY, JURKAの得点で追いすがるが、振り切られ、ハンガリーが優勝した。

【女子】

▼6月29日

日本　22（11－19、11－13）32　ハンガリー

女子世界学生選手権初戦は、ハンガリーとの対戦。開始5分、サイド石井が7mTを獲得し樽井が確実に決め日本先制。6－0DFを攻めあぐむハンガリーに対し樽井の速攻で連続得点をあげる。開始17分まで6対8と一進一退の攻防が繰り広げられるが、徐々にハンガリーのディスタンスシュートが決まりだし、日本は低めの3－2－1DFにシステムを変え対抗するも、20分過ぎから足がとまり6連続失点で前半を11対19で終了。後半に入り、ハンガリーがもたつく中、早川・石井の両サイド、稲葉のディスタンスで必死に追いすがるが、ハンガリーのパワーに押し込まれ、点差を縮めることができない。日本も前田・吉田のディスタンスで喰らいつくも後半11対13、Total 22対32で終了。

（得点）稲葉・石井・前田・早川・樽井・吉田3点、儀間・鎌倉・山田・原1点

▼6月30日

日本　29（12－15、17－18）33　トルコ

女子世界学生選手権2戦目は、前回優勝のトルコとの対戦。低い3－2－1DFでスタートした日本。トルコのディスタンスシュートを許し、トルコが先制点をあげる。日本も原のディスタンスなどで開始7分5対6の互角の立ち上がり。ここから、トルコのノーマークシュートをGK石原がことごとくファインセーブするも、日本もイージーミスが続く。10分過ぎに雷雨による雨漏りで10分以上の中断。試合再開後も両チームともミスが続くが、小林のポスト、原のディスタンスで17分7対6とリードし、リズムにのりだしたところで、豪雨による二度目の15分間の中断。試合再開され、ここからトルコのエースにディスタンス・カットインを許し前半を12対15で終了。

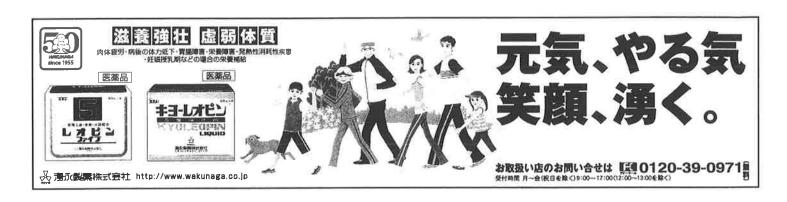
後半開始早々に原のディスタンス、石井のサイドで連続得点をあげるが、トルコのエースにワンアシストを含む4ゴールを奪われなかなか点差が縮まらない。日本も稲葉のカットイン、樽井の7mT、前田のディスタンスで反撃するも要所でトルコのディスタンスを守り切れず、後半17対18でトルコに逃げ切られた。

（得点）石井・原6点、前田・早川・小林・樽井3点、山田2点、稲葉・吉田・高橋1点

▼7月1日

日本　34（14－21、20－14）35　ルーマニア

女子世界学生選手権3戦目は、大型選手が揃うルーマニアとの対戦。センターDFの185cm 2枚が壁となり日本が攻めあぐむなか、ルーマニアにポストプレー、速攻で4対1とリードされる。対する日本はセンター儀間のカットインに石井のサイドシュートで対抗。開始17分11対10とルーマニアにリードされ攻撃が単調となり、ルーマニアの速攻を許す。日本も樽井の7m、ディスタンスで得点するもルーマニアの攻撃を止められない。前半を14対21で終了。

後半に入り、日本は低い3－2－1DFにシステム変更しルーマニアの右45、ポスト封じをかける。OFでは日本の早さを活かし、アウトサイドを広げ稲葉・儀間のフェイントから樽井・原のカットイン、石井のサイド、リスタートなどでルーマニアを揺さぶる。ルーマニアの足が止まりだし、退場の間に鎌倉のポスト、山田のサイドシュートで24分32対

31と1点差まで詰めよる。ここから一進一退の攻防が繰り広げられ、残り1分山田のサイド、石原のファインセーブで34対34の同点に追いつく。日本も必死にボールを奪いにいくもパッシブにならず、残り15秒ルーマニアに得点を許し、最後のワンプレーを阻止され34対35で終了。
（得点）樽井9点、石井・原5点、儀間・山田4点、鎌倉3点、稲葉・前田・早川・小林1点

▼7月2日
日本　32（18－13、14－15）28　ブラジル
女子世界学生選手権4戦目は、ブラジルとの対戦。6－0DFでスタートした日本。ブラジルのOFに対し積極的にパスカットを狙い速攻、アウトサイドへのオフェンスで石井・早川で前半11得点を積み重ねる展開で試合を優位に進める。対するブラジルは左45エースのパワープレーで日本を揺さぶり、前半を18対13で終了。
後半に入り、ブラジルの接触しながらのパワープレーからリバウンドボールを得点につなげられる苦しい展開。OFではブラジルの高い3－2－1・3－3DFにてこずり、ミスから速攻を許すも、日本もセンター稲葉から原・前田のカットイン、小林のポストプレーなどで後半を14対15で終了。32対28で1勝目をあげた。
（得点）石井・原7点、早川5点、前田・山田・樽井3点、稲葉2点、儀間・小林1点

▼7月3日
日本　26（15－17、11－9）26　ポーランド
女子世界学生選手権5戦目は、ポーランドとの対戦。大型のポーランドに対し、6－0DFのプレスディフェンスで臨んだ日本だったが、高さに負けポストプレーで得点を重ねられ、開始10分で5対10とリードを許す。流れを掴みたい日本は、DFシステムを3－3のプレスディフェンスに変更し、相手のミスを誘う。このシステム変更がうまく機能し、前田・山田の速攻や稲葉のカットインなどで前半を15対17の2点ビハインドで折り返す。
後半に入り低い3－2－1DFに変更し、積極的に相手にプレッシャーをかけ、逆転を狙う。その後、吉田のロング、樽井のステップシュートなどで、ついに日本は逆転に成功する。しかし、ポーランドの強引なディスタンスシュートを守り切れず、3連続失点を許してしまう。ここから試合は点の取り合いとなり2点差がなかなか縮まらない。試合終盤、石井のサイドシュート、樽井のカットイン等で同点、さらに山田の速攻で再逆転に成功するが、ポーランドの強引なオフェンスにより、体を張った前田が退場してしまう。日本は最後まで、粘りのDFを試みるが、相手のステップシュートが決まり、同点のまま試合終了。最終戦となる、明日のチェコとの試合は、必ず勝利を掴みたい。
（得点）原5点、前田・樽井4点。早川・吉田3点、稲葉・石井・山田・2点、高橋1点

▼7月4日
日本　23（13－14、10－14）28　チェコ
女子世界学生選手権最終戦は、チェコとの対戦。前半6－0のディフェンスでスタートした日本は、ポストと右サイドで得点を奪われるも、樽井のディスタンスと7mで同点。その後、日本はミスが続き前半10分で5対8とリードされる苦しい展開となるが、チェコも日本同様にミスが続き、高橋の速攻と儀間のステップシュートなどを含め、前半を13対14の1点ビハインドで折り返す。
後半に入り、右45度とセンターを厚くマークするも、チェコの強引ディスタンスに対応できず、開始10分で19対16とリードを広げられる。ここで日本はディフェンスシステムを3－2－1に変更し、後半15分、21対21に追いつく。ここから、ゲームはなかなか動かず、後半22分チェコのディスタンスにより2連続失点を許し、25対23と追いつけない日本はさらにミスを重ねる。最後の試みとして日本は、オールマンツーDFを仕掛けるが、得点を許し23対28で試合終了となった。本大会を1勝4敗1分で終わった。
（得点）樽井6点、稲葉・前田・儀間・早川・鎌倉・吉田2点、石井・小林・山田・高橋・原1点

第17回女子ジュニア世界選手権

17th Women's Junior Handball World Championship

■大会期間：2010年7月17日（土）－　31日（土）　　■開催国：韓国

第17回女子ジュニア世界選手権大会を終えて

U20女子日本代表監督　**栗山 雅倫**

去る7月17日から31日にかけて、韓国ソウル市他で、世界ジュニア選手権大会が開催され、日本は、U20日本女子代表チームとして参加致しました。以下、報告致します。

大会までの準備

2010年5月28日、29名の候補選手の参加を得て、U20女子日本代表チームの選考会を開催いたしました。好素材が多く集まった中、強化委員会との慎重な協議を経て、最終的にはコーチングスタッフのチーム構想に最もふさわしいと思われる18名を選出致しました。選考に漏れた選手も甲乙つけがたく、実際には将来性あふれる選手が18名以外にも多く存在することも併せて御報告させて頂きます。

選考後も、全日本インターカレッジの出場権が絡む、西日本学生選手権大会などの関係で、まとまって時間の取れる合宿は組むことができませんでしたが、日本リーグチーム、関東及び関西の学生チームの御協力を得て、国内ではありながら、複数の練習マッチをこなしながら、チーム作りを進めてまいりました。チームの中心のコンセプトとして「機動性」を掲げました。日本のいずれのカテゴリーにおいても、国際舞台で勝ち抜くには必要不可欠なものとして「機動性」があげられます。動きとしても判断としても機動的な取り組みを実践し、そしてフル代表に結びつく戦い方として、あらゆる意味の機動性を身につけてもらいたいとの考えに基づき設定しました。

チームとしての仕上がりは、決して十分とは言えない状態でしたが、ジュニアといえどもナショナルプレーヤーとしての自覚、そして決意をもって現地入りの日を迎えることができました。

現地に入ってからは、最近まで日本で活躍をされていたイム・オキョン氏率いるソウル市庁チームと練習マッチや6対6などを行って頂きました。このときの状態は、大会直前の緊張感も手伝って、それまでになく、手ごたえのある段階にまでくることができたと思います。イム氏からも同様の評価を頂きました。

タイ、オーストラリア戦

初戦、2試合目と是が非でも取りたい2チームとの対戦となりました。タイは予選でも大差で勝っているチームではありますが、実際にはフィジカル的にも成長し、エネルギッシュなチームでありました。オーストラリアは技術・戦術的には熟しているとは言えないチームでしたが、形態的にはヨーロッパに勝るとも劣らない陣容でした。結果は危なげなく勝利することができましたが、初戦の緊張感、国際大会の独特の雰囲気を経験できたと見え、チームが少しずつ変化していくのを感じました。

ヨーロッパチャレンジ

今大会、ヨーロッパ予選ファイナリストのハンガリー、そしてヨーロッパ上位で勝ち抜いてきたスペインとの対戦を迎えました。最初にあたったのはスペイン、周囲の予想を覆す接戦となりましたが,勝つチャンスは沢山あったと思います。良い勝負でも負けは負け､結果は真摯に受け止めていますが、この世代の可能性を感じたのは事実です。

続くハンガリー戦は、相手もメインラウンド進出を確実にしたい一戦とあって、スタートからすさまじい勢いで圧倒されました。世界トップとの差に戦う準備をしていたつもりとはいえ、日本として新たな一歩を踏み出すことができませんでした。

ブラジルとの決戦と順位決定戦

メインラウンドへの進出をかけたブラジルとの対戦。ここまでにハンガリー、スペインと引き分け、大会前の下馬評をあっさり覆している強豪チームとあって、相当困難な戦いになることを予想して臨みました。前半リードする局面を持ちながらも、結局はパワフルなプレーを前に勝利を手中にできませんでした。その後、順位決定戦も善戦し、一試合ごとに成長するも16位で大会を終えました。

明言をしていたこと、ヨーロッパ勢のIHFスタッフとの会話からは、オリンピック、世界選手権に次ぐ位置づけであることを聞かされたことは特に印象に残っています。

今回は、十分な経験を踏ませることなく、大会に臨まざるを得ませんでした。大会に臨むことこそが経験かもしれませんが、やはり世界で戦い抜く経験を踏ませるには、事前の充実は否めません。その工夫を今後も考えていければと思っております。

大会に臨むに際し、様々な方々のご協力を頂きました。選手ともども、大変感謝いたしております。この場をお借りしましてお礼申し上げます。ありがとうございました。

大会を終えて

今回から、ジュニア世界選手権も世界選手権と同じ条件での開催とあって、ヨーロッパを中心に、各国の相当の力をつぎ込んでいたようです。ブラジルはオリンピックチームとの

【最終順位】

優勝：ノルウェー／2位：ロシア／3位：モンテネグロ／4位：韓国／5位：ハンガリー／6位：オランダ／7位：ドイツ／8位：スウェーデン／9位：セルビア／10位：スペイン／11位：クロアチア／12位：ブラジル／13位：フランス／14位：アンゴラ／15位：アルゼンチン／**16位：日本**／17位：中国／18位：メキシコ／19位：チュニジア／20位：タイ／21位：グリーンランド／22位：オーストラリア／23位：コンゴ／24位：香港

【試合結果】

▼予選リーグ

日本　37（18－9、19－5）14　タイ

試合開始1分、原のカットインで得た7ｍスローを池原が決め、日本が先制。タイも右サイドで得点し1対1とする。その後6－0DFが機能しDFからの原の2連続速攻、小菅、加藤、沢のポスト、加藤のカットインと7対1と日本がリードする。しかしリバウンドが拾えずタイにポストシュート、7ｍスローを与えてしまい、15分に8対5となる。加藤の速攻、原のカットインで引き離そうとするが、またリバウンドを拾われ10対7。17分に日本は乾、翁長と投入しリズムを変える。山根の7ｍスローセーブ、松尾の7ｍスロー、相沢の速攻、乾から翁長へのポストプレーが決まり、14対7。DFもよく足を動かし粘りを見せる。再度リバウンドがタイに奪われるものの、山根が好セーブする。乾のカットイン、翁長のポスト、松村のサイドで前半は18対9と日本がリードした。

ハーフタイム、栗山監督から、リバウンド処理の徹底やDFでの修正を指示された日本はDFを固め、後半2分から川村のロング、沢のポスト、原のカットイン、沢の3連続速攻、原のカットイン、小菅のカットイン、川井の速攻と15分まで10連続得点で27対11と大きくリードする。カットインで1点返されるが、高校1年生の佐々木が7ｍスローを決め、コートプレーヤー全員得点となる。その後も佐々木の速攻とロング。川村のロング、川井のカットインで得点を重ね、交代して入った林、宮川の両GKも好セーブを見せた日本は最終的に37対14で勝利した。

〈個人得点〉沢6，翁長・原5，小菅・加藤・松村・佐々木3，川井・乾・川村2，相沢・池原・松尾1

日本　46（21－8、25－7）15　オーストラリア

日本のスターティングメンバーは、左サイド加藤、左バック乾、センター川村、右バック原、右サイド相沢、ポスト沢、GK山根。DFで翁長が交代で入り6－0DFでスタートした。加藤のサイドシュート、相沢の速攻で日本は先制する。しかし、オーストラリアのエースに連続してロングシュートを決められ2対2となる。リードしたい日本は、指示通りに攻撃において相手DFの間を割ることが出来始め、原のカットイン、翁長のポストシュートで得た7ｍスロー、川村のカットインから7ｍスロー、原のカットインから7ｍスローと前半20分で5本の7ｍスローを獲得し、池原が決めて14対4とリードを広げる。ここから日本は3－2－1DFに変更し、DFでリズムをつかみ山根のセーブから川井の速攻、乾の速攻からのロング、池原、松村の速攻などが出て21対8と大量リードし前半を終了した。

後半に入っても、日本の攻撃において相手DFの反則を誘うカットインが続く。原、乾のカットイン、翁長のポストな

どで相手DFの退場を誘い、池原の7mスロー。加藤、相沢の速攻などでリードを広げる。代わって入ったGK林も相手のロングシュートを再三セーブし、その後交代したGK宮川もノーマークをセーブしチームを盛り上げた。佐々木のロング、カットイン、松村の速攻などペースを落とすことなく、46対15の大差でオーストラリアに勝利し今大会2勝目となった。
〈個人得点〉池原11，乾6，原5，相沢・沢・松村4，翁長・加藤・佐々木3，川井・松尾・川村1

スペイン　21（13－9、8－10）19　日本

1分、乾のロングで先制。スペインもすぐさまカットインで1対1。その後、乾のロング、カットイン、松尾のステップシュート、原のカットインなどバックプレーヤー陣が、スペインDFを崩していく。日本のDFは6－0。192cm左バック、186cmのポストなど大型選手を相手に必死のDFをみせて対応した。攻撃において、前日に引き続き相手のDFの間を割るカットインが目立った。原、松尾、乾のカットインから得た7mスローを池原が決める。途中から交代したGK林も、スペインのロングシュートに対応をした。前半残り10分、攻撃のミスから、スペイン11番に連続4得点を与えてしまい、9対13と4点差で折り返す。

後半、日本は乾、松尾のカットインで相手退場を誘う。スペインは1人少ない状況で体格を活かした攻撃を展開する。後半15分、13対18と最大5点差がついた。ここから日本は粘りを見せる。川村の速攻、乾のロング、カットイン、池原の速攻で17対18と1点差に詰める。残り5分、再三日本はシュートチャンスを得るが、シュートが決まらず、逆にスペインは11番が得点を重ねた。結局19対21の2点差で敗退した。
〈個人得点〉池原8，乾6，松尾2，原・川村・松村1

ハンガリー　33（19－6、14－5）11　日本

開始21秒、185cm左バックのドラバイに10mからロングシュート打ちこまれ先制される。日本が攻撃をミスしている間に、ハンガリーに右サイド、ロング、カットインと7分で0対5とリードされる。日本は松村のサイドシュートで初得点。6－0DFの日本はハンガリーバックプレーヤー陣にロングシュートを打ち込まれ、なかなかDFが機能しない。乾のロング、相沢の速攻、原のカットインなどで食らいつこうとするが、体格とスピードに勝るハンガリーは、テクニシャンのコバチッチやロングシューターのドラバイを中心に得点を重ね、4対11とリードを広げられてしまう。体格を活かしたハンガリーの低めの6－0DFにより、日本はロングシュートを打たされる形になり、なかなか突破口を見い出せず6対19で前半を終えた。

ハーフタイムでナショナル選手としての戦い方を栗山監督から指示され、気持ちを切り替えて後半に臨んだ。日本は声を出し、チームとしてあきらめない姿勢を前面に出して戦うことを確認した。後半スタートは、またもハンガリー、ドラバイの11mからのロングでスタートした。日本も松村のサイドシュートで1点返す。その後日本はハンガリーのDFを攻めあぐむ。原のカットイン、松尾のカットイン、松村のサイドシュートで得点を挙げるが散発に終わり、連続得点をあげることができなかった。最後まであきらめない姿勢を貫けた戦いだったが、11対33の大差で終了した。
〈個人得点〉松尾3，相沢・原・松村2，乾・川村1

ブラジル　25（8－9、17－10）19　日本

予選ラウンド最終戦はブラジル。お互いこの試合に勝利すれば、メインラウンド進出が決まる大事な1戦。

前半1分、松尾のミドルで先制。すぐさまブラジルもポストシュートで1対1。松村の速攻で得た7mスローを池原が決め2対1。その後、池原のサイドシュート、沢の速攻、加藤のカットからの速攻で5対2とリードする。しかし、センターDFの原が負傷退場の間にロングシュートを立て続けに決められ、5対5と同点に追いつかれる。しかしここから日本は翁長のポストシュート、原の速攻ロング、乾のロング、山根の7mスローセーブとペースを上げる。またノーマーク連続セーブの間に乾のカットイン、山根負傷退場の間に、GK宮川の7mスローセーブなどで9対5とリードを広げる。残り5分から、ブラジルエースのキャロラインのランニングシュートにタイミングが合わず連続ゴールを許し、前半を9対8と日本1点リードで折り返す。

ハーフタイムでは、DFでの修正とOFでのポジショニングを確認した。後半スタートでロング、リバウンドで9対10とリードを許してしまう。日本も横山のサイドシュート、松尾の7mスローで得点するが、ブラジルも個人技で応戦。松尾のステップシュート、原のカットインで追いすがるが、ロングシュートを打ちこまれてしまい、なかなか追いつけない。残り10分、乾のロング、原のサイドシュートで16対19の3点差に詰め寄る。ここから日本はシュートミスからの逆速攻、DFでの退場が続き5連続得点を許してしまう。残り3分で16対24の8点差。原のカットイン、松尾のステップシュート、池原のサイドシュートなどで追いすがるが19対25で敗退した。この結果から予選Cグループ4位となり、日本はプレジデントカップに臨むこととなった。残念な結果となったが、日本選手は、大型選手相手との戦い方をしっかりと経験することが出来た。
〈個人得点〉松尾5，原4，乾・池原3，翁長・沢・横山・加藤1

▼プレジデントカップ

アンゴラ　32（15－14、17－12）26　日本

プレジデントカップ1戦目はアンゴラ。アフリカの新勢力として台頭してきているチームとの対戦となった。試合はア

ンゴラの 15 番カザンガのロングで幕を開ける。その後、原のカットイン、速攻、松村のサイドで 3 対 1 とリードするが、15 番カザンガのロングで 3 対 2。翁長の速攻で 4 対 2。試合の主導権を日本が握る。アンゴラはカザンガのロング、カットインを中心に試合を進めていく。松尾のカットイン、松村のサイドシュート、乾のロングで前半 10 分 8 対 5 とリードする。しかしアンゴラの独特のタイミングで放たれるロングシュートを守れない。10 mより外からロングシュートを決められてしまい、なかなかペースを掴めない。15 分カザンガの 7 本目のロングシュートが決まり 9 対 10 とリードされる。日本は松尾のステップシュート、原のカットイン、ロング、乾のロング、原のカットインから 7 mスロー・池原などしぶとく試合を進め、前半 14 対 15 と 1 点ビハインドで折り返す。

後半は、またもアンゴラのロングシュートが決まる。GK や DF システムを変えるなどでしてリズムを変えようとするが、アンゴラのロングシュートを守れない。シンプルながらも身体能力を武器に DF から離れた位置からのロングシュートに対して DF が対応できず、GK も後手に回った対応となってしまう。原のサイド、松村のサイド、翁長のポスト、池原のサイドなどで粘り後半 10 分で、18 対 20 と 2 点のビハインド。一進一退が続き、アンゴラのロングシュート攻勢に、日本は多角度から攻める。池原のサイドシュート、原のカットイン、松村の速攻、乾のカットインで得た 7 mスローを横山が決め 23 対 26 として終盤へ進む。日本は再度 DF システムを変更するなどして対応をするものの、いつもとは違うタイミングでのロングシュートに対応できない時間が続く。残り 5 分で 2 点差。追いかけるチャンスを得るが、この場面で退場が出てしまう。ここから 4 連続得点をされ、残り 1 分で松尾のミドルが決まるが、時すでに遅く、26 対 32 で敗退した。

アフリカ勢の身体能力、歩幅の広さなど、日ごろ日本では体験できないシュチュエーションに GK､DF とも惑わされた。チーム全体としては､最後まで戦う姿勢は貫くことはできた。

この結果から 15 － 16 位決定戦（アルゼンチン戦）に向かうことが決まった。

〈個人得点〉原・松村 6，乾・横山・松尾・池原 3，翁長 2

▼ 15 － 16 位決定戦

アルゼンチン　28（12-11、8 － 9）27　日本
（8　7mTC　7）

日本の最終戦の相手は南米アルゼンチン。日本は左サイド松村、左バック乾、センター松尾、右バック原、右サイド相沢、ポスト翁長、DF で沢が入り、GK 山根のスターティング。1 分 7 mスローを与え先制されるが、松尾のカットイン、翁長のポスト、相沢のカットイン、乾の速攻で 4 対 1 とリードする。その後、体重を活かしてのカットインに押し込まれ得点を許すが、日本も横山の 7 mスロー、原のカットイン、松村の速攻、松尾のカットインなどで応戦し前半を 11 対 12 の 1 点ビハインドで折り返す。

後半に気持ちを入れなおしスタート。松尾のカットインから横山の 7 mスロー、乾のロングで追いかけるが、アルゼンチンの攻撃に押し込まれ、後半 10 分で、13 対 16 と 3 点差がつく。しかし、日本もここから粘りをみせる。翁長、原を中心にした DF で踏ん張り、乾のカットイン、手渡しパスから原のカットイン、池原の 7 mスローで追いすがる。GK 山根も連続セーブを続け、残り 3 分 19 対 19 と追いつく。28 分乾のカットインが決まり 1 点リード。ここでアルゼンチンはタイムアウトを請求。次の攻撃で強引なカットインで退場と 7 mスローを奪われ 20 対 20 の同点。日本が一人少ない中、29 分 30 秒にアルゼンチンのカットインを山根がセーブして同点で後半が終了した。

プレジデントカップの延長は、大会規程により延長戦は行わず、7 mスローコンテストで決着させる。日本、アルゼンチンとも 4 人が決めて、再び 5 人のサドンデスとなった。日本 9 人目がセーブされ、アルゼンチンが決めて 7 mスローコンテスト 7 対 8、日本は 27 対 28 で敗退。16 位となって今大会が終了した。

〈個人得点〉乾 6，松尾 5，池原･原 4，相沢･横山 3，翁長･松村 1

高松宮記念杯

第51回 全日本実業団ハンドボール選手権大会

個人表彰

	[男子]	[女子]
優秀監督賞	岩本　真典（大崎電気）	郭　恵静（ソニーセミコンダクタ九州）
MVP	豊田　賢治（大崎電気）	張　素姫（ソニーセミコンダクタ九州）
ベストセブン	浦和　克行（大崎電気）	中島　亜樹（ソニーセミコンダクタ九州）
	宮﨑　大輔（大崎電気）	高栖　由香（ソニーセミコンダクタ九州）
	豊田　賢治（大崎電気）	高橋　恵（ソニーセミコンダクタ九州）
	末松　誠（大同特殊鋼）	上町　史織（北國銀行）
	岸川　英誉（大同特殊鋼）	若松　里佳（北國銀行）
	渡久川兼太（大同特殊鋼）	藤井　紫緒（オムロン）
	門山　哲也（トヨタ車体）	塩田　沙代（香川銀行Ｔ・Ｈ）
最優秀新人賞	樋口　睦（湧永製薬）	田口　舞（広島メイプルレッズ）

最終順位

[男子]

優勝：大崎電気（15度目の優勝）
２位：大同特殊鋼
３位：トヨタ車体
４位：湧永製薬
５位：トヨタ紡織九州
６位：Ｈｏｎｄａ
７位：北陸電力
８位：豊田合成
９位：ＨＣ山口
10位：八光自動車
11位：セントラル自動車
12位：トヨタ自動車

[女子]

優勝：ソニーセミコンダクタ九州（初優勝）
２位：北國銀行
３位：オムロン
４位：香川銀行Ｔ・Ｈ
５位：広島メイプルレッズ
６位：三重バイオレットアイリス

総評　大会を振り返って

全日本実業団ハンドボール連盟理事長　**朝生和光**

高松宮記念杯第51回全日本実業団ハンドボール選手権大会は、徳島県ハンドボール協会様の多大なご尽力を賜わり、７月７～７月11日に徳島県徳島市および板野郡北島町にて開催いたしました。

今年で51回目の開催となる本大会は、1960年に広島県で第１回の大会を開催させていただいて以降、北は北海道、南は沖縄まで日本全国各地で開催させていただいている歴史ある大会であります。

このように無事に51回大会を迎えられましたのも、各都道府県ハンドボール協会様ならびに大会関係者の皆様方、協賛いただきました企業様、他数多くの方々のご尽力・ご協力の賜物であり心より感謝とお礼申し上げます。

さて、51回目を迎えた今大会は、昨年同様男子は12チーム、女子は６チームの出場となりました。

男子は、昨年度優勝の大同特殊鋼、準優勝の大崎電気、３位の湧永製薬、４位のトヨタ紡織九州をシードとし、予選トーナメントを勝ち上がった４チームによる決勝リーグ戦、女子は、Ａ・Ｂグループのリーグ戦後、両グループの上位２チームによる決勝トーナメントで優勝を競いました。

また、今回の大会は、今年度から正式発足した「全日本社会人連盟」の下部組織として過渡的に存続している「全日本実業団ハンドボール連盟」で従前どおり運営をさせていただきましたが、来年度より「高松宮記念杯全日本実業団ハンドボール選手権大会」の名称も「全日本社会人選手権（仮称）」に変更されることも視野に入れ、新連盟設立の趣意である「全日本実業団ハンドボール連盟の組織と、従来組織化されていなかった一般クラブチームが新連盟として設立されることにより、我が国の小学生を除くすべてのチームは都道府県ハンドボール協会と各連盟に所属することになり、年間の試合数の増加によりチームとしての強化、ハンドボール愛好者の楽しみの深まりとしての充実を図る」との目的に少しでも前進するため、今回より参加チームを門戸を広げて募って参りました。結果、わずか１チームではありますが、男子で「ＨＣ山口」が初参加となり、来年度以降の運営の前哨戦として兆しが見えて来た大会でもありました。

そういう意味では、「高松宮記念杯全日本実業団ハンドボール選手権大会」という名称での大会は約半世紀に渡る歴史に幕を閉じる訳ですが、「発展的組織集約」として今後もハンドボールの発展のために邁進して参りますので、よろしくご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

さて、大会の内容ですが、まず、男子のトピックスとしては、スペインリーグで活躍した宮﨑大輔選手（大崎電気）の国内復帰と、先にご紹介したＨＣ山口の初参戦でありましたが、試合結果報告にもありますとおり、大崎電気が大会２連覇を狙う大同特殊鋼を大差で破って２年振り15度目の栄冠を手中にし、初参戦のＨＣ山口は、実業団チームと互角に渡り合い、国体開催に向けて弾みがついたと感じた戦いでありました。

総じて男子は、故障者が目立ち、ファンには少し残念な大会ではありましたが、その中でも均衡する熱戦が繰り広げられましたので、今後の大会が楽しみだと思います。

女子については、昨年同様の顔ぶれでありましたが、ソニーセミコンダクタ九州が昨年度準優勝の北國銀行を延長の末破り、初優勝を飾りました。

スタートから10分までに4点のリードを成功させた北國銀行でしたが、10分過ぎからソニーセミコンダクタ九州の反撃が始まり1点差を争うゲーム展開から、前半を同点で終了。後半に入っても一進一退の攻防でどちらも譲らず延長に突入。延長前半ソニーセミコンダクタ九州の先行し、北國銀行も追随するも1点及ばず、ソニーセミコンダクタ九州が初の栄冠を手中に収めました。この白熱した一戦は、観戦に来て頂いたファンに大きな感動を与えてくれたビッグゲームだったと思います。

今年度最初のビッグゲームでありましたが、国内の大会のみならず、今年度の注目は「第22回男子世界選手権」が2011年1月13日－30日にスウェーデンで開催されます。出場24ヶ国中、日本は、Bグループで、アイスランド（ISL）、ノルウェー（NOR）、オーストリア（AUT）、ハンガリー（HUN）、ブラジル（BRA）の強豪との戦いが待っています。是非最高のパフォーマンスを発揮し、オリンピックのキップを勝ち取るステップにしていただきたいと思いますので、今後とも皆様の絶大なる応援をお願いいたします。

男子優勝　大崎電気

写真提供：スポーツイベント社

大崎電気監督・岩本真典

はじめに、高松宮記念杯第51回全日本実業団ハンドボール選手権大会を開催するにあたり、ご尽力いただいた実業団連盟をはじめ日本ハンドボール協会、地元徳島県、ならびに関係各位の皆様に改めて、心より厚く御礼申し上げます。

この度、高松宮記念杯第51回全日本実業団ハンドボール選手権大会において2年ぶり15回目の優勝を果たすことが出来ました。

これも一重に日頃から大崎電気ハンドボール部を支えてくださっている渡邊オーナーをはじめ社員の皆様、そして多くのファンの方々の力あってこその結果だと思っております。

そして何より、昨年一年間悔しい思いをした選手の努力の賜物だと思っています。試合に出場している選手は勿論、ベンチを怪我や戦術という理由で外れた選手もチームの為に最善を尽くし、役割を果たしてくれたことに感謝しております。

また今年は、大崎電気ハンドボール部創部50周年にあたりその節目の年のスタートに優勝することが出来たことも二重の喜びとなりました。

ただチームはまだまだこれからです。この優勝をスタートにこれまで以上の努力を重ねてこれからの大会でも安定した力が発揮出来、継続して勝てるチームを目指して日々、精進していきます。今後とも大崎電気ハンドボール部を宜しくお願い致します。

大崎電気コーチ・佐藤良彦

高松宮記念杯第51回全日本実業団ハンドボール選手権大会において2年ぶり15回目の優勝を果たすことが出来ました。私にとって全日本実業団ハンドボール選手権大会は、とても思い入れのある大会で、自分のハンドボール人生で初めて日本一を経験させて頂いたのが、2004年に高知県で開催された大会でした。当時のチームは日本一の経験がある選手も少なく、優勝した瞬間は選手、スタッフ全員で喜び爆発させたことを今でも記憶しています。それから6年が過ぎ、今回は立場も変わりコーチとして大会に参加することになりました。

大会前は、全日本活動等でなかなかチーム全員で練習することが出来ず、コンビネーション等で不安な面もありました。しかし、選手一人一人がその現状の中で、考えて自分の役割をしっかりと果たしてくれていたので、今回の結果に繋がったのだと感じております。また、試合でも厳しい状況は何度

もありましたが、とにかく最後まで諦めずにチーム一丸となって戦い抜くことが出来た大会だったと感じています。今後は、今回の優勝で満足することなく更に強いチームを目指し、プロセスを大切に日々精進していきたいと思います。

最後になりますが、大崎電気ハンドボール部に熱い声援を送っていただいたすべての皆様、応援ありがとうございました。

女子優勝　ソニーセミコンダクタ九州

ソニーセミコンダクタ九州ヘッドコーチ・郭　惠靜

まず、今回の開催にあたり、ご尽力戴きました関係各位、地元徳島県協会の皆様のきめ細やかな大会運営に感謝申しあげます。2010年度最初の大会である高松宮記念杯第51回全日本実業団ハンドボール選手権大会に優勝できた事をとても嬉しく思っています。

試合の準備をする約2ヶ月は、全日本活動・ビーチハンド・世界学生などが重なり満足いく状態を準備する事が出来ず不安要素を抱えて臨むこととなりましたが、選手一人一人が個々の役割を考え練習に取り組んで来た事の成果が出た大会だったと思います。

大会初戦である北國銀行に敗れた事も今思えば、チームを奮い立たせた一戦でした。その後の試合には、スタッフ含め選手が危機感を持って試合に臨み、決勝戦では予選での課題を修正出来た事、自分達のやるべき事をしっかりミーティングの中で意思統一し徹底できた事、そしてチームが一つになれた事が今大会の優勝に繋がったと感じております。

4連戦という厳しい闘いではありましたが、本当に選手が最後まで粘り強く頑張ってくれましたし、ベンチ入りできない選手が試合に臨むために一生懸命サポートに徹してくれたことも優勝の一つの原動力となったことは云うまでもありません。

各試合においては、地元中高生の各チームへの応援がとても力強く、うれしい限りで選手の大きな活力となりました。

それから、何よりも日頃から応援をいただいております社員の皆様、ファンの皆様からの後押しによって、苦しい戦いに勝利することができました。この結果に満足することなく更に進化していけるチームにしていきたいと心から思っております。

引き続き、ソニーセミコンダクタ九州ハンドボールチームBLUE SAKUYAに皆様方のご支援ご声援の程、よろしくお願い申し上げます。

第30回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会

【男子】優勝：学石クラブ　準優勝：桜門クラブ　3位：法政二OB、かぶら送球会
【女子】優勝：青森クラブPink　準優勝：SAKURAクラブ　3位：やんちゃクラブ、REDS

■大会を振り返って

福島県協会事務局　飯塚敏章

福島県本宮市での開催が今年で15回目となった全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会。

また、昭和56年御殿場開催の第1回全国クラブハンドボール選手権大会から通算30回という節目の大会を開催できますことは福島県ハンドボール協会としましても嬉しい限りです。

さて、会場の福島県本宮市は智恵子抄に歌われた安達太良（あだたら）山が最も美しく眺望でき、ゆったりと北上する阿武隈川のある自然に恵まれた場所で、平成7年には「友よ　ほんとうの空に　とべ！」をスローガンに【ふくしま国体】ハンドボール競技も開催されました。

ハンドボールをこよなく愛し、ハンドボール関係者を温かく迎えてくれる本宮市で今年も各ブロック予選を勝ち抜いた強豪チーム（男子16チーム、女子8チーム）が力と技を競い合い、記憶に残る熱いゲームが展開されました。会場には全国トップレベルのプレーを観戦しようと多くのハンドボール愛好者が集い、選手たちに熱いエールを送ってくれましたこと、協会一同、衷心より御礼申し上げます。

最後に、全国各地から日本ハンドボール協会公認審判員A級合格を目指し来福されました受験者の皆さま、そして日本ハンドボール協会審判審査指導委員の皆さま、本当にお疲れさまでした。

■戦評

〈男子決勝〉
学石クラブ　20（11－12、9－6）18　桜門クラブ
（開催地）　　　　　　　　　　　　（東京）

前年度3位の法政二OBを延長で勝利した関東ブロック予選1位の桜門クラブとかぶら送球会との準決勝戦を接戦で制した地元・学石クラブとが対決。

桜門クラブのスローオフで前半がスタートし、開始15分まではお互い点の取りあいとなった。16分過ぎから桜門クラブ8番堀の3連取を含む5得点連続があり点差がひろがり始めたが、学石クラブは流れを取り戻すためタイムアウト請求。タイムアウト終了後、落ち着きを取り戻した学石クラブは14番緑川らのミドルシュートが決まりだし、前半は12－11桜門クラブ1点リードで折り返す。

後半になって、開始3分までに学石クラブが連続得点し逆転するものの、桜門クラブも負けずに3連取して引き離すという展開へ。残り6分の時点で同点であったが、残り5分の終盤に学石クラブ14番緑川のカットインシュートが連続で決まり、学石クラブが逆転勝利した。

総合的に判断すると桜門クラブは延長戦だった準決勝の疲れがやや見られたこと、そして前述の学石クラブ14番緑川が11点をたたき出したことが勝因であったと思う。

〈女子決勝〉
青森クラブPink　22（13－8、9－8）16　SAKURAクラブ
（青森）　　　　　　　　　　　　　　（東京）

青森クラブPinkは準決勝でやんちゃクラブと対戦。常にリードされた状態であったが後半残り6分から鮮やかな5連続得点で逆転勝利し、勢い止まらぬまま決勝進出。

一方、SAKURAクラブの準決勝はREDS戦。こちらは終始リードを保ちながらの展開で順当な決勝進出となった。ちなみに、3年前の決勝でも同じカードという因縁の対決。

SAKURAクラブのスローオフで始まった前半、開始13秒にSAKURAクラブ17番宮本が得点すると、すぐさま青森クラブPink 3番秋村が連続得点するというスピーディなゲーム展開となる。警告はあるものの前半は互いに退場者を出さずに終了し、13－8青森クラブPinkが5点リードする。

後半になって、前半調子の良かった青森クラブPink 3番秋村の得点を抑えようとSAKURAクラブもディフェンスシステムを変えたりしたが、今度は青森クラブPink 7番菅岡のシュートが決まりだし、点差はひらく一方となった。結局、終始リードし続けた青森クラブPinkが3年ぶり2度目の優勝を決めた。

青森クラブPinkの3番秋村（10点）と7番菅岡（5点）の2人で15点をあげた攻撃力がとても印象的であった。

■男子優勝チーム

学石クラブ　緑川　大

「小針先生がベンチに座っているから頑張ろう」を合言葉に今大会に臨みました。

大会2日前、小針先生が亡くなり、私たちは落胆していました。しかし、「小針先生への一番の供養は優勝しかない。」

男子得点王の緑川選手

という気持ちでチーム一丸となって試合に臨み、小針先生がベンチに座っていてくれると信じて戦いました。

苦しい展開、接戦になった時こそ、チーム全員が小針先生の事を想い、小針先生がチーム全員の背中を押してくれました。

今回の優勝は、小針先生が見守ってくれているなか、チーム一丸となり勝ち取った結果だと思います。

今後の大会でも、小針先生に対して恥じないようにプレーをし、一つでも多くの試合に勝ち、天国にいる小針先生を喜ばせたいと思うと同時に、学石クラブの名を小針先生に負けないように全国に広めていきたいと思います。

「小針先生！　今まで本当にお世話になりました。小針先生から教わった闘争心をこれからも忘れずに受け継いでいきたいと思います。これからは、天国でゆっくりとお休みください。今まで本当にありがとうございました。」

■女子優勝チーム

青森クラブ Pink　山田如子

平成 19 年度は初出場で初優勝しましたが、昨年は東北地区予選で敗退しており、今回は２回目の優勝となりました。

試合を振り返ってみると、１回戦の新潟 TC はボール回しが速い上に、時々ブラインドで打つステップシュートに苦しめられました。しかし、接触プレーが続く中でも笑顔がさわやかで、とても感じの良いチームだと思いました。

準決勝は、昨年優勝した福島クラブを破った群馬県のやんちゃクラブ。速攻の展開が速く、さらにロングシュートの確率も高く、とても良いチームでゲームは接戦の末、勝つ事ができましたが苦しい試合でした。

決勝戦は３年前と同じ東京の SAKURA クラブ（関東第１位)。ゴールキーパーが上手く得点するのは難しいと思っていましたが、ベンチの不安をよそに前半５点リードし後半もそのままリードを守りきってくれました。

今大会に臨んだ我が青森クラブ Pink は、年々平均年齢が高くなっているせいか⁉　体力・スピードが落ちてきている上、さらに練習量も少なくなっていたので、どの試合も苦戦は予想していました。しかし、エースの秋村（朋)、山田が予想に反して⁉頑張り、新加入の菅岡・小田内もシュートを何本も決めてくれ、そして何よりも勝因は、ゴールキーパー「大魔神」成田を中心に、ディフェンスが頑張ってくれたからだと思います。相手の速攻を許さず高い壁でロングシュートをことごとく防いでくれました。

最後まで勝てるとは思いませんでしたが、選手全員が勝ちたいという気持ちが強かったのだと思います。

平均年齢はちょっと高いかもしれないけれど、まだまだ頑張れるのでは…⁉

この優勝はとても嬉しく、選手全員と共に喜びたいと思います。大会関係者の皆様、ありがとうございました。

女子得点王の秋村選手

～うらやましいW杯騒騒動～

企画・広報委員
早川　文司

サッカーW杯で日本は海外では初めての決勝トーナメントに進出。国内は連日のように「沸騰」した。

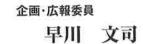
開幕が迫るにつれ、期待の大きさを示すように各地でイベントが開かれたり、東京タワーが日本のカラーであるブルーにライトアップされたり…なんともうらやましい話題をメディアが取り上げた。また、勝ち進むたびに大きなスペース、時間を割くなど、メディアはサッカー一色といった感さえあった。

確かに期待と関心を集める世界でも有数の一大イベントだから、やむを得ない面も理解できる。22年の招致に名乗りを挙げている日本にとっては、追い風になるかもしれない。

こうした現象がハンドボールだったら…万々歳といったところだろう。だが、現実は甘くはない。W杯開幕直前に行われたジャパンカップ2010。私が見た新聞報道は写真もなし、隅っこに「ちょこっと」だけ載ったものばかりだった。サッカーと比べ、あまりの格差にがく然としたものだ。

サッカーもかつては関心は低かった。でも、日本リーグが誕生。それが下火になりそうな時、プロ化されＪリーグが誕生した。そしてW杯に出場するようになり、いっそうの高まりを見せた。

その一因に韓国と対等に戦えるようになったことが挙げられるのではなかろうか。やはり「勝利」が関心を惹き付ける最良の手段だろう。

今回のW杯では開幕前に４連敗して南アに乗り込んだ。「１次リーグ突破なんてないよ」－そんな声を多く耳にするなど、世間は冷淡だった。ところが初戦に勝ち一気にムードは一変。さらに決勝トーナメント進出を決めると「勝つのは当たり前」との熱狂ぶりになった。

結果はご存じのようにＰＫ戦負け。でも、一般の評価は「よく戦った」と高かった。世界の舞台に立つのは当然の雰囲気であり「今回ももうひとつ勝てていた」とのムードすら漂った。

確かに日本サッカーは健闘したと思う。世界の強豪を相手に堂々と戦いを挑み、２勝を挙げた。なぜ、日本のサッカーは「２勝」出来たのか。冷静に分析してロンドン五輪出場を願うハンドボール界強化の参考にならないものだろうか。

レギュラーと控えの一体化、体格、体力で劣るための対抗策…日本の活躍から競技ごとに学ぶものがあるはずだ。このあたりを参考にして強化につないでもらいたい。チーム力アップと同時に個の強さも必要ではないか。いろいろな意見をまとめ「打倒韓国」へ手を打ちたい。サッカーから刺激をもらい、ロンドンへの歩みを確かなものにしていきたいものである。

平成22年3月19日、駒澤大学において、第8回ハンドボールコーチング研究会が開催されました。本研究会は、全国指導者が自身の経験や・知見を持ち寄り、実際の現場で有用な情報を共有する機会として位置付けられています。

研究会の発表内容については、本誌で連載報告していただく運びとなりました。

今月は浅野幹也先生（日本ウェルネススポーツ専門学校）の発表内容「学生クラブチームにおけるトップレベルクラブチームとの連携強化活動に関する考察」を報告させていただきます。なお、他の発表については次号以降で報告を連載いたします。

(財)日本ハンドボール協会指導委員会研究部会　舎利弗　学（学校法人松韻学園福島高等学校）

学生クラブチームにおけるトップレベルクラブチームとの連携強化活動に関する考察

浅野　幹也（日本ウェルネススポーツ専門学校）

キーワード：ハンドボール、クラブチーム、連携強化活動、競技力向上、実践研究

1. はじめに

日本の球技は、これまで企業に支えられてスポーツ界の中で確固たる地位を築いてきた。しかしながら、ここ平成に入ってから有力な企業チームの廃部が相次ぎ、その数は250にも及ぶ。企業が撤退し、活動の資金を失った中で、新たに自主運営に踏み切ったクラブもある。しかしながら、クラブの経営基盤を確立することは並大抵なことではない。クラブの財政基盤を確立する考え方として、（1）マーケティング検討（2）個人会員の組織化（3）オリジナルグッズの製作企画（4）協賛企業の獲得（5）サポーター及び後援会員の拡大（6）地域との連携強化（7）広報活動の強化（8）競技力向上等々があげられる[1)]。

本研究は、愛知県がメッカと言われるハンドボール競技において、企業チームから市民クラブ化したトップレベルチームに学生クラブチームが連携し、3年間にわたり試みてきた強化活動を通じて、クラブの財政基盤を確立していく上で最重要項目となる競技力向上に関する考察を試みる。

2. NPO法人名古屋スポーツクラブ（HC名古屋）の設立

1967年創部のブラザー工業（株）ハンドボール部の会社の方針による日本リーグ撤退の意向が2001年に出され、35年の歴史を有し、過去には全日本総合選手権を制するなど日本の女子ハンドボール界を常にリードするトップチームが姿を消す事態となった。ハンドボール王国である愛知県内において、女子選手の憧れであり、目標であったチームの存続を目指し、愛知県協会、名古屋市協会などが「女子ハンドの灯を消すな」を合い言葉に市民クラブ化で再生させることになった。2003年4月には、総合型地域スポーツクラブを目指し、家庭婦人バレーボールチームと剣道チームを加え、愛知県の認証を受け特定非営利法人として活動することとなった。

クラブの支出については、日本リーグに参戦しているトップチームの遠征費が最も大きな項目である。日本全国から集まった、トップレベルでプレーしたい、日本リーグや日本代表選手として活躍したいとの熱い思いの選手らは、劣悪な練習環境や生活環境に耐え、夢を叶えるべく頑張っている現状である。この環境を少しでも改善し、チームとしてステップアップしていくためにも、サポート企業、個人会員の減少に歯止めをかけ、さらに拡大していくための財政基盤の確立が最大の課題である。

3. HC名古屋トップチームと学生チームとの連携の意義

学生クラブチームが地域に密着しているトップレベル・スポーツクラブである「HC名古屋」と連携することにおいて、練習環境を共有し未熟な学生選手を高い競技水準に引き上げ、トップチームの選手と共に国体や、国内最高峰である日本リーグで活躍できる選手を育成することを目的に3年前に創部した。専門学生である学生選手らは学校での学業において、実社会で役立つ資格を取得することにより、健康スポーツ・医療・福祉分野での就職を目指し、卒業後も日本リーガーとして活躍していく選手を育てていくことを創部のコンセプトとしている。

4. 連携の成果と考察

全国各地域では、総合型スポーツクラブの設立と共にハンドボールの普及活動も盛んになってきている[2)]。しかしながら、ハンドボールメジャー化の道のりは険しく、競技の振興は未だ学校体育が中心となっている。ユースのカテゴリーにおいてもやはり、高等学校・大学が主となり競技力の高い選手が一般クラブで活躍することはほとんどない。それ故に、一専門学校がチームを創部したのは国内で初めてのケースであり、メディア

で取り上げられるほどの話題になった。

専門学校としては全国初のハンドボール部が誕生。練習中に指示を与える「名古屋ウェルネススポーツカレッジ」ハンドボール部の浅野幹也監督（中央）
（倉持幸一撮影）

（記事：時事通信社）

「HC 名古屋セカンドチーム」の役割を担いながら、学生単独チームとしての公式戦の機会を一般クラブの試合に求めたが、日常の学生の練習活動に対するモチベーションを保つまでの試合環境には乏しく、地域の学生連盟に学生リーグの活性化を目的にオープン参加の機会をいただいた。但し、全国大会への出場機会は登録上、全国クラブ選手権となる。試合期は週に６日の練習量に及んだ。そのうち２回をトップチームとの合同練習に当ててきた。トップチーム監督の指導の元、技術・戦術を学生選手に落とし込み、学生単独の練習時にはセカンドチーム監督である筆者の指導により、それを反復練習することによって学生チームにおいてもトップチームと同様のチーム戦術をベースとしている。したがって、週２回の合同練習の機会ではあるが、国体や日本リーグへの学生選手の投入は学生選手の力量の低さや、選手間での微妙なコンビネーションに支障は生じるものの、現実の試合への投入も可能となった。表１には、創部か

ら３年間の学生チームの戦績を示した。

結果として、トップチームとの連携は学生チームの形成と競技実績の確立を早めた。しかしながら、表２で示した戦績で明らかなようにトップチームの成績向上には貢献できているとは現時点では言えない。近年のトップチームの競技成績はブラザー工業時代の栄光は陰を潜め、低迷している。これでは、ファンや協賛企業を増やし財源を膨らませていくことは難しい。クラブ化した現在のトップチームでプレーしていくには、基本的には自ら生活基盤を確立し、劣悪な練習環境や生活環境に耐え、夢を追い続けるしかない。そのため選手の確保が難しく、現実の選手数も乏しい。

現状として学生選手らのトップチームへの加入は現場での練習を活性化させ、戦術練習を機能的にしているが、何分、２年間の課程ではトップ選手としての育成にはあまりに時間が足りない。今後のトップチームでの活躍を期待され昨年度卒業した学生選手は、残念ながら、就職した職場環境を理由にトップチームでのプレーの継続には至らなかった。しかしながら、トップチームと学生クラブチームの連携のこの３年間の試みは、競技力向上を目的としたクラブのモデルケースになっていることに、少なからず周囲に期待を寄せられている。年々、学生チームの競技成績向上と共にトップチームに投入できる選手が増えてきている。このような選手を一人でも多く育成し、学校を卒業してからもトップチームの選手として日本リーグで活躍し続ける選手をチームに残していくことが大きな課題としてあげられる。

表１. 学生クラブチームのこれまでの戦績

		2007 年度	2008 年度	2009 年度
東海学生リーグ	春季	２部優勝	１部４位	１部６位
	秋季	１部５位	１部３位	２部優勝
クラブ選手権	県予選	２位	優勝	優勝
	東海ブロック予選		３位	優勝
	全国　本戦			４位

表２．ＨＣ名古屋トップチームへの学生選手投入数と戦績

	2007 年度	2008 年度	2009 年度
トップチームに投入した学生選手数	１名	３名	４名
国民体育大会　本戦成績	秋田国体１回戦敗退	大分国体１回戦敗退	新潟国体１回戦敗退
全日本総合選手権成績	ベスト８	ベスト８	１回戦敗退
日本リーグ成績	６位	６位	６位

２００８年全日本総合選手権（石川県）で活躍する学生選手。卒業後もトップチームで継続してプレーする選手の育成が望まれる（写真提供：スポーツイベント）

5．まとめ

未だ学校体育を中心とした選手育成を行っているハンドボール界においては、ユースカテゴリーにおける選手らの夢はインターハイやインカレに出場することであり、現実的にこれ以上の魅力はない。創部から３年目にして全国クラブ選手権に出場したが、学生からすると同年代の選手は少なく、学生選手権と比べてしまえば大会の様相も物足りなさを感じたことは否めなかった。また、全国クラブ選手権以降、単独チームでチャンピオンシップを目指せる大会がないため、競技に対するモチベーションが大きく低下した選手が多かったことも事実である。やはり、インカレを目指す中での強化が望ましいと考える。

また、前述したように専門学校で取得した資格を生かし就職はしたものの、職場においては日本リーガーとして活動していくことへの理解を得ることが非常に困難であることが現実である。昨今の厳しい経済状況の中ではあるが、日本リーガーとしての活動に理解を示していただける職場の開拓が今後においてさらに一層望まれる。

引用参考文献

１）清水栄嗣、角紘昭、永井東一、菊池秀夫、佐野毅彦、高橋義雄、榊原孝彦『トップレベル・スポーツクラブマネジメント研究会報告書』平成 19 年度文部科学省トップレベル・スポーツクラブ活動支援事業、2008.3

２）佐倉弘之『呼び覚まされた指導の系譜　指導者のためのスポーツジャーナル』（財）日本体育協会、冬号、vol.278: 14-15、2008.11

ドーピングコントロールテスト（DCT）の実施報告

平成22年度は、JHAの全試合でDCT（ドーピングコントロールテスト）の対象になっています。

今年度の高松宮記念杯〈第51回全日本実業団ハンドボール選手権大会（平成22年7月7日～11日、於：徳島)〉のDCT活動において、国内のハンドボール大会では初めて無線通信機を用いた活動が行われました。

1）試合会場とDCS（ドーピングコントロールステーション）への動線が長い。

2）シャペロン（対象選手をDCSへ誘導する人）の数が少なく、選手が試合会場から直接DCSへ来ない場合の対応（着替えやミーティングで選手控え室へ行く、インタビュールームへ行く、表彰式会場へ行く等)。

3）不測の事態が生じてJADA派遣のリードDCO（ドーピングコントロールオフィサー）またはNFR（協会の代表者／佐久間克彦、原田悟）へ意見・指示を受ける時。

などが従来からDCT活動において円滑な活動を妨げていました。

しかし、無線通信機を用いる事で瞬時に解決を図る事が可能となりました。そのため、今回のDCT活動においては選手及びドーピング関係者の不満が少なかったようです。

平成22年度日本体育協会公認アスレティックトレーナー連絡会議

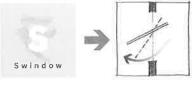
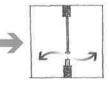
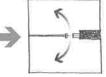
平成22年7月24日、東京岸記念体育会館にて連絡会議が開催された。会の冒頭、指導者育成課長より昨年11月の事業仕分けにより、国の民間スポーツ振興費等の補助金は予算縮減の方針が打ち出され、今後活動内容の見直しを進めていく説明がなされた。

連絡会議の内容は、1）今後のJASA-AT事業の日程説明、2）アスレティックトレーナーマスタープランについて、3）活動事例報告であった。

アスレティックトレーナーマスタープランに関しては、策定の背景と経緯、JASA-ATの現状、今後の方向性、活動方針案の説明がなされ、2010年までに3000人のJASA-ATの輩出、国体への帯同義務付けなど具体的な目標、方策が示された。尚、このマスタープランは2020年を一つの目途とし、2012年、2015年に中間評価と見直しを図ることが合わせて説明がなされた。

活動事例報告では、「日本陸上競技連盟」、「日本バスケットボール協会」、「千葉県体育協会」の3つの団体におけるトレーナーの活動報告が行われた。各団体における「トレーナー部会」の位置づけ、団体内での役割、活動内容とその狙いが説明された。特に今年度国体を控える千葉県の報告では、国体の運営が県・開催市町・競技団体それぞれで行われており、各団体同士の連携が非常に少ないため現場におけるサポート体制の整備がスムーズにいかないといった、問題点等も指摘されていた。

（文責・花岡美智子）

※アスレティックトレーナーとは、公認スポーツ指導者制度の一つでスポーツドクター及びコーチとの緊密な協力のもとに、スポーツ選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷・障害の応急処置、アスレティックリハビリテーション及び体力トレーニング、コンディショニング等にあたる者です。

平成22年度 栄養部門 活動中間報告
全日本ハンドボール選手の栄養に関する意識調査

医事専門委員会栄養部門

強化計画の一環として選手の栄養に関する意識調査を立案し、男子は6月、女子は7月の合宿中に、西窪強化本部長を始め、監督、コーチ、トレーナー、事務局の方々の協力を得て、実施させて戴きました。選手の皆様にはご協力を戴き感謝いたしております。

この調査は、昨年、某大学ハンドボール部の協力を得て行ったパイロットスタディに基づき、全日本選手の皆様へのサポートはどのようにあるべきか明らかにするために、食生活に関する意識や希望について、その実態把握を目的として行いました。また、全日本選手は海外遠征が多いことから、海外での食事に関して感じている不安や要望を聞き取りたいということも大きな目的の一つでした。食事が合わなかったり、衛生面が心配であったり、においや味ではわからない食中毒もありますので、これらについての対策が急務かと思われます。

全日本選手は日々ハードなトレーニングによって身体を酷使しており、成果を確実にパフォーマンス向上につなげるためには、食事や休養のとり方が重要になります。食に関する意識を確認し問題点を改善することで、トレーニングの成果をさらに上げることが出来ると考えられます。女子選手には、月経異常や貧血に陥りやすいといった特有の問題があります。適切な食生活は、鍛練と同様に選手の強化にはなくてはならないものです。

現在、調査の結果をもとに、各選手へのフィードバックの準備を進めています。さらに、分析中ですが、選手の皆様の食に関する意識は高く、その取り組み（下記の表）意識も高い選手が多くみられました。選手の皆様が自分自身で必要な食事を選び、実践し、持てる力を存分に発揮出来る、そのような選手になってもらえればと心より願って取り組んでいます。

柳田美子、村井美保子、佐久間克彦、坂本静男

表　「食生活への取り組み」質問の一部

1　食事量をコントロールしている
2　食事内容を記録している
3　朝食を必ず食べている
4　欠食をしていない
5　偏食（好き嫌い）をしていない
6　ほぼ決まった時間に食事をしている
7　自分で料理を工夫している
8　主食・主菜・副菜を揃えるようにしている
9　管理栄養士に栄養指導を受けている
10　食品の栄養成分表示を確認している
11　栄養・食事に関する本やテレビ番組などを積極的に見て、情報を集めるようにしている
12　ファストフード（fast food : ハンバーガー・ホットドック・牛丼など）を食べないようにしている

スコアールーム①

第51回全日本実業団選手権大会

開催期日：2010年7月7日(水)～11日(日)
会　　場：徳島県・徳島市立体育館、北島北公園総合体育館

【男　子】

▼予選トーナメント1回戦

豊田合成 30（12－8、18－15）23 セントラル自動車
トヨタ車体 34（16－13、18－9）22 HC山口
Honda 27（14－9、13－13）22 八光自動車工業
北陸電力 35（17－15、18－10）25 トヨタ自動車

▼2回戦

大同特殊鋼 40（18－13、22－9）22 豊田合成
大崎電気 41（21－9、20－18）27 北陸電力
湧永製薬 28（14－6、14－11）17 Honda
トヨタ車体 26（11－13、15－10）23 トヨタ紡織九州

▼9～12位決定戦

HC山口 27（16－14、11－9）23 セントラル自動車
八光自動車工業 29（15－12、14－11）23 トヨタ自動車

▼11－12位決定戦

セントラル自動車 30（17－9、13－15）24 トヨタ自動車

▼9－10位決定戦

HC山口 34（18－13、16－13）26 八光自動車工業

▼5～8位決定戦

トヨタ紡織九州 45（25－18、20－14）32 豊田合成
Honda 31（13－9、13－17）30 北陸電力
（4－3、1－1）

▼7－8位決定戦

豊田合成 29（18－13、11－14）27 北陸電力

▼5－6位決定戦

トヨタ紡織九州 41（20－9、21－18）27 Honda

▼決勝リーグ

大同特殊鋼 27（15－11、12－14）25 トヨタ車体
大崎電気 32（13－16、19－10）26 湧永製薬
大同特殊鋼 31（16－7、15－14）21 湧永製薬
大崎電気 26（12－15、14－10）25 トヨタ車体
トヨタ車体 26（16－10、10－13）23 湧永製薬
大崎電気 35（15－11、20－11）22 大同特殊鋼

【女　子】

▼リーグ戦

オムロン 28（16－5、12－5）10 香川銀行T・H
北國銀行 30（17－12、13－8）20 広島メイプレッズ
オムロン 34（19－7、15－11）18 三重バイオレットアイリス
北國銀行 26（14－12、12－11）23 ソニーセミコンダクタ九州
香川銀行T・H 27（12－11、15－8）19 三重バイオレットアイリス
ソニーセミコンダクタ九州 35（13－9、22－11）20 広島メイプレッズ

▼5－6位決定戦

広島メイプレッズ 20（6－10、14－9）19 三重バイオレットアイリス

▼準決勝

ソニーセミコンダクタ九州 30（13－16、17－12）28 オムロン
北國銀行 27（14－9、13－13）22 香川銀行T・H

▼3－4位決定戦

オムロン 31（14－9、17－10）19 香川銀行T・H

▼決勝戦

ソニーセミコンダクタ九州 27（13－13、8－8）26 北國銀行
（4－3、2－2）

スコアールーム②

第30回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会

開催期日：2010年7月16日(金)～18日(日)
会　　場：福島県・本宮市総合体育館・本宮一中体育館・本宮高校体育館

【男子】

▼1回戦

桜門クラブ 35（19－7、16－11）18 向陵クラブ
甲府クラブ 39（18－11、21－9）20 岩手教員クラブ
法政二OB 27（13－5、14－10）15 金津クラブ
エルムクラブ 36（16－10、20－11）21 山形新球会
不来方クラブ 22（11－13、11－7）20 蓮田クラブ
かぶら送球会 27（15－11、12－10）21 古工クラブ
湖陵クラブ 33（17－14、16－14）28 東陽
学石クラブ 31（21－10、10－11）21 H.B.C新潟

▼2回戦

桜門クラブ 32（16－4、16－11）15 甲府クラブ
法政二OB 29（13－9、16－11）20 エルムクラブ
かぶら送球会 27（14－11、13－15）26 不来方クラブ
学石クラブ 32（16－14、16－13）27 湖陵クラブ

▼準決勝

桜門クラブ 25（10－9、8－9）24 法政二OB
（3－3、4－3）
学石クラブ 28（14－14、14－12）26 かぶら送球会

▼決勝

学石クラブ 20（11－12、9－6）18 桜門クラブ

▼市長杯1回戦

岩手教員クラブ 31（15－8、16－17）25 向陵クラブ
金津クラブ 28（15－15、13－12）27 山形新球会
蓮田クラブ 35（16－7、19－12）19 古工クラブ
東陽 34（15－14、19－15）29 H.B.C新潟

▼市長杯準決勝

金津クラブ 21（9－9、12－10）19 岩手教員クラブ
蓮田クラブ 28（13－11、15－10）21 東陽

▼市長杯決勝

蓮田クラブ 29（15－11、14－8）19 金津クラブ

【女子】

▼1回戦

やんちゃクラブ 20（13－9、7－8）17 福島クラブ
青森クラブPink 23（11－4、12－4）8 新潟TC
REDS 19（9－7、10－7）14 北海道倶楽部
SAKURAクラブ 24（15－6、9－11）17 古川クラブ

▼準決勝

青森クラブPink 22（10－12、12－4）16 やんちゃクラブ
SAKURAクラブ 17（9－4、8－6）10 REDS

▼決勝

青森クラブPink 22（13－8、9－8）16 SAKURAクラブ

▼市長杯1回戦

福島クラブ 24（11－9、13－6）15 新潟TC
北海道倶楽部 21（12－8、9－9）17 古川クラブ

▼市長杯決勝

福島クラブ 27（15－7、12－9）16 北海道倶楽部

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」7月入会・継続会員

【岩　手】上川　正二【宮　城】千田　文彦、加藤　宏之【秋　田】松田　光雄【埼　玉】中野　慶子、宇賀神　奈央【東　京】河内　鋭雄、安藤　純光、可児　友紀子、三善　信明【神奈川】坪井　俊之、花岡　美智子【山　梨】齊藤　實【愛　知】安藤　孝、山田　壮八【三　重】加藤　祥【大　阪】里村　静俊、戸谷　克蔵【兵　庫】本多　美穂【奈　良】奥山　美樹【和歌山】松本　芳樹、松本　朋子、大橋　吉次【長　崎】石井　通義

【9月の行事予定】

【会　議】

9月11日(土)　常務理事会（東京）

9月29日(水)　第1回全国理事長会（千葉）

【大　会】

9月4日(土)
第35回日本リーグ開幕（各地）

9月18日(土)～20日(月)
第30回全国クラブ選手権大会・西（和歌山県・和歌山市）

9月30日(木)～10月4日(月)
第35回国民体育大会（千葉県・市川市、香取市）

HANDBALL　CONTENTS　Sep.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

(財)日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』第五一二号
昭和四十年六月七日
第三種郵便物認可
平成二十二年八月二十六日印刷
平成二十二年九月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話　代表〇三―三四八一―二三六一
振替　〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人　川上憲太
定価　年間三三〇〇円